

「化石の卒業制作(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

図工の授業では、6年生の3学期に「卒業制作」をする学校が多い。個人個人の作品(例えば「オルゴール」や「写真立て」)だったり、学校の壁面に残す大作(例えば「校歌を一人一文字彫って組み立てる」)のこともある。私も小学校6年生の時に、学年全員で版画の壁画を制作した記憶がある。

「理科の卒業制作」というのは聞いたことがないが、私はそれをやってみたくと思った。題材は「化石の置き物」に決めた。三葉虫のレプリカを大量に作ったのもその為だ。

おおまかな「完成イメージ」としては、厚紙(板目紙)に本物の化石を貼り、時代や名称が印刷されたラベルを貼るといったものだ。化石はできるだけいろいろな時代の代表的な種、それも実物で揃えたかった。そこで、以下のように考えた。

地質年代	化石名	産地
新生代第四紀	有孔虫(星砂)	沖縄県
新生代第三紀	サメの歯	アフリカ
中生代	アンモナイト	アフリカ
古生代	三葉虫(レプリカ)	アメリカ

三葉虫以外は、何とか実物で揃えられそうだった。



幸いなことに、理科の消耗品カタログに、実習用の化石標本が載っている。アンモナイトとサメの歯の化石だ。小さな化石だが、一箱に200個程度入っていて、単価はそれほど高くない。こうした活動で個々の子どもに配布するには最適な教材だ。



箱の中のアンモナイトは、このような状態だ。説明書によると、アフリカ・モロッコ・ゴラーマ産で、中生代ジュラ紀(約1億5千万年前)の化石とある。



直径5mm程度のものから、2cm超のものまである。小さいながらも「巻き」はしっかりしていて、いかにも「アンモナイト」という形状のものばかりだ。見た目は茶色いが、恐らく「赤鉄鉱(ヘマタイト)」に置換された化石で、研磨すると金属光沢に変化しそうだ。



二つ目は「サメの歯」の化石。サメは大きいので全身骨格は無理だが、歯の化石は大量に産出するので、これも比較的安価に入手できる。子どもの頃、夏休みの博物館イベントでもらった記憶がある。